

# 英語スパイラル型授業の 実践と高等学校への展開 — 高大連携への提案 —

帝塚山学院大学 杉本 喜孝

京都工芸繊維大学 坪田 康



# 本日の内容

- 1 目的について
- 2 多読(Extensive Reading, 以下ER)について
- 3 読解速度について
- 4 音読について
- 5 大学での実践について
- 6 高校での授業と高大連携に向けて
- 7 今後の課題

# 1. 目的 ①

大学1~2回生対象のリーディング授業で、音読を読解に付随する副次的活動と捉えて、チャンクリーディングの技法と併せた指導を行い、読書量増加及びwpmと読解率との相関分析を目的とした中長期にわたるER・速読・音読の英語3活動スパイラル型実践を意図している。

# 1. 目的 ②

大学での研究から明らかになった問題点を検証し、

①英語読解力向上支援の個別最適化

②他大学との共同研究や、PPT教材の提供・公開による

中高の教育現場で応用可能な速読及び音読指導法の提案

③個々の活動を活かした自律学習者支援の仕組みの構築

## 2. ERについて ①

- ✓ ERは英語力向上への効果が高いことが認識され、国内・海外の研究で数多く取り上げられてきた。(千葉 2017)
- ✓ Chiba・Yokoyama (2016) は、学習環境の違いによって生じる読解速度の差を調べ、読解速度1%向上のために要した語数は、**強制的**に読書をした被験者では17,583語、**自由**に読んだ被験者は5,671語であることを報告している。
- ✓ 本実践では授業内ERとするが、学生が本を自由に選択する方法を採用することで、学習者主体の授業を実現する。

## 2. ERについて ②

✓ERが効果を上げるための10要因 (Day and Bamford 2002)

1.容易に読める 2.自由に本を選ぶ 3.大量に読む

4.楽しんで読む 5.豊富なジャンル ⇨授業内で実現

6.読む行為自体に価値を置く 7.知識の集積が目的 8.一人で読む

9.教師がモデルとなる ⇨教師のガイダンスにより周知

10.読書スピードの向上 ⇨ERプログラム単独では実現が困難

チャンクリーディングによって実現

## 2. ERについて ③

- ✓ ERは長期にわたり継続的に提供されることで効果を発揮しやすいことが報告されている。(Nishizawa et'al, 2017)
- ✓ 教材は, 学生が主体的に読書時間の調整を行えるようにするため, ジャンルが豊富な1話完結ブックレット型の短い読み物で統一されているSRA Reading Laboratory®シリーズを使用する。



# SRA Reading Laboratory® Complete Kit

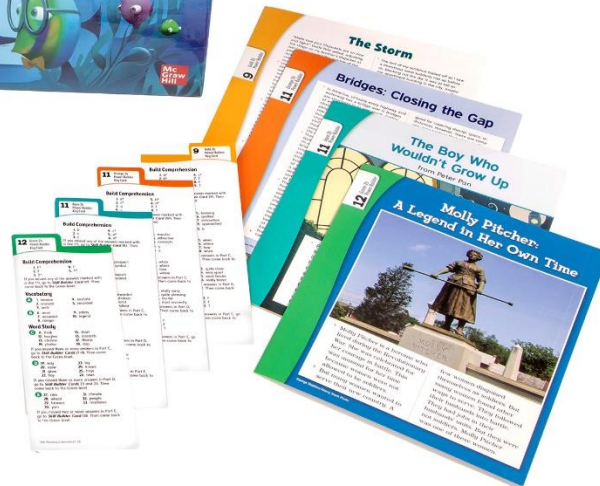
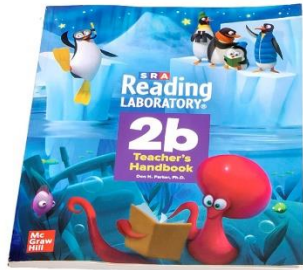
2-a, 2-b

Lexile range: 390-1150



1-a, 1-b, 1-c

Lexile range: -890



3-a, 3-b

Appropriate for Grade 7-Adult



### 3. 読解速度について

✓ 読語数が増えると読解速度と内容理解の正確さが統計的に有意に向上する。(千葉, 2017)

➡ チャンク処理の速度と精度向上を目的に指導を行う。

✓ 黙読速度の向上を目的に, チャンク提示法を用いた研究で,  
コンピューター画面上にチャンクでテキストを提示\*した場合,  
読解速度, 内容理解等の向上に効果がある。(山口他, 2009)

➡ パワーポイント(以下, PPT)を使用した速読訓練を行う。

## 4. 音読について

- ✓ 読みの停滞を防ぐには、音声的な基本知識とそれを実行する技術を学ぶ場の提供が求められる。(河内山他, 2013)
  - ✓ **チャンクを意識** / 習得することで**内容理解**に役立つ  
(高梨・高橋, 1984; 寺島, 2002; 土屋, 2004)
  - ✓ **直読・直解**に役立つ(佐久間, 2000)
  - ✓ 音韻符号化が自動化・高速化する(門田, 2007, 2012)
- ➡ 多読・速読に加えて, 音読活動を取り入れる。

## 5. 大学での実践について ①

1コマ100分授業。1・2回生ともに1単位で実施。授業の冒頭30分間に、各自のペースで3～4冊を目標に多読。秋学期は、5クラス(次ページ)。

第一発表者は中学・高校での勤務経験有。高校生を対象に、多読・速読の併用による英語読解力の変化を調べ、英語力が中位層・下位層の生徒のwpmと正答率の上昇の有意差を確認(Sugimoto, 2016)。



1. 多読・速読＋音読

2. 授業内での音読に関する指導と助言＋つまづき箇所に対する解説(全体へのフィードバック)→自律学習を支援する仕組みの構築を検討

## 5. 大学での実践について ②

クラス1(14)	2回生の中・上位者向けリーディングクラス。後期は講座の約半数が、韓国及び英語圏への半年留学中である。
クラス2(14)	1・2回生の英語資格クラス。TOEIC500点が目標。英語が得意な学生は少ないが、まじめに学習に取り組んでいる。2名が春学期のIPテストで600点をクリアした。
クラス3(6)	3回生の英語再履修クラス。苦手意識を持つ学生が少なくないが、音読課題の提出や授業には積極的に取り組む学生が多い。
クラス4(10)	3回生の英語再履修クラス。1~2名を除くと、苦手意識を持つ学生が多い。課題の提出や授業内多読には積極的に取り組んでいる。
クラス5(28)	1回生の下・中位者向けリーディングクラス。授業や音読課題の提出等はまじめに取り組む学生が多い。

( ) 内の数字は講座人数

## 5. 大学での実践について ③

テキスト:『Reading Explorer 2』(センテージラーニング社)

補助教材:テキストのリーディングセクションの英文を, パワーポイントのスライド上でクリックごとにチャンクが現れるように提示。

提出内容:読解時間, 内容理解問題正答数, 読解率

学生はスライドショーのリハーサル機能を使用して読解時間を計時し, 内容理解問題に答え, 読解時間と正答数をエクセルシート(次ページ, 青塗りつぶし箇所)に入力。WPM, 読解率は自動計算される。累積を記録し, 学期末に担当教員に提出。

	語数	秒数	WPM	総問題数	正解数	読解率
Unit 1-A	324	267	72.8	8	8	73
Unit 1-B	394	227	104.1	15	14	97
Unit 2-A	461	246	112.4	16	16	112
Unit 2-B	384	304	75.8	19	17	68
Unit 3-A	562	387	87.1	5	5	87
Unit 3-B	461	311	88.9	5	5	89
Unit 4-A	468	216	130.0	5	5	130
Unit 4-B	411	326	75.6	11	11	76
Unit 5-A	380	399	57.1	5	4	46
Unit 5-B	455	309	88.3	5	5	88

学生は秒数と正解数を記入する

速読用記録用紙



# 5. 大学での実践について ④

授業の冒頭30分間, SRA Reading Laboratory®シリーズから任意のものを選択

記録用紙1: 読解時間, 正答数, 読解率(※)

記録用紙2 (次ページ): 感想や文法・構文等のつまずき箇所

※WPM×正答数÷総問題数

Color: Brown												
the number of words	Comprehension									Time(sec.)	The number of correct answers	Accuracy rate
Number:1 316	1	2	3	4	5	6	7	8	9		正答数計 ( )	読解率 ( ) %
Number:2 340	1	2	3	4	5	6	7	8	9		正答数計 ( )	読解率 ( ) %
Number:3 437	1	2	3	4	5	6	7	8	9	387	正答数計 ( 4 )	読解率 ( 88 ) %
Number:4 347	1	2	3	4	5	6	7	8	9	292	正答数計 ( 5 )	読解率 ( 71 ) %
Number:5 456	1	2	3	4	5	6	7	8	9	298	正答数計 ( 4 )	読解率 ( 73 ) %
Number:6 489	1	2	3	4	5	6	7	8	9	341	正答数計 ( 5 )	読解率 ( 86 ) %
Number:7 405	1	2	3	4	5	6	7	8	9		正答数計 ( )	読解率 ( ) %
Number:8 320	1	2	3	4	5	6	7	8	9	290	正答数計 ( 5 )	読解率 ( 66 ) %
Number:9 330	1	2	3	4	5	6	7	8	9		正答数計 ( )	読解率 ( ) %
Number:10 458	1	2	3	4	5	6	7	8	9		正答数計 ( )	読解率 ( ) %
Number:11 299	1	2	3	4	5	6	7	8	9	252	正答数計 ( 4 )	読解率 ( 57 ) %
Number:12 308	1	2	3	4	5	6	7	8	9	263	正答数計 ( 5 )	読解率 ( 70 ) %

多読用記録用紙1  
(読解時間, 正答数, 読解率)

No.	Date	Title	number of words			evaluation	impression, opinion etc.
1	10月21日	The Monkey's Heart	3	2	0	◎	おさるがサメの上に乗れることにびっくりした。
			3	2	0		
2	10月28日	The birthday Present	3	0	8	☆	誕生日が素敵な一日になってよかった。
			6	2	8		
3	10月28日	Life on the Prairie	3	3	0	◎	日記になっていて読みやすかった。
			9	5	8		
4	11月4日	Picture in Her Mind	3	4	7	○	お祭りの様子が具体的に想像できてとても楽しそうだった。
			1	3	0		
5	11月4日	A Day at the Circus	3	0	8	☆	サーカスが見たくなった。ぞうが凄いと思った。
			1	6	1		
6	11月25日	Beatrix Potter's Rabbits	2	7	0	☆	ピーターラビットがどのようにできたのかわかった。
			1	8	8		
7	11月25日	Treasure Trove	3	4	7	○	子どもたちが宝探しをされていて面白かった。
			2	2	3		
8	11月25日	Helen Kellar	3	3	5	◎	できないことができるようになって感動した。
			2	5	6		
9	12月9日	Tiger, the Brahmin, and the Jack	4	3	7	○	7行目のfancy tuneとは
			3	0	0		
10	12月16日	Two Tricky Friends	5	2	3	○	少し長めの文章だったので難しかった。
			3	5	2		
11	12月16日	The Woman in Apartment 9	3	3	3	◎	はじめは気難しいおばあちゃんだと思ったが、最後笑ってくれてよかった。
			3	8	5		

多読用記録用紙2  
(感想・構文等のつまずき箇所)

# 5. 大学での実践について ⑤

学生は、リーディングセクションの終了後1週間以内に、LMS上の指定フォルダ(下図)に録音音声提出する。提出された音声は発音、アクセント、イントネーション、及び音の連結・消失等のチェックを受け、モデル音声との比較において、70~100点で、5点刻みの採点結果とコメントを受ける。

教材一覧 教材 成績 出席 その他 メンバー コース管理 学生としてログインする ログアウト

タイムライン

さらに過去の記録を取得

音読

音読	更新	実行者数	...
unit 4-B p.37-A レポート 利用可能期間 2022/09/26 17:00 - 2022/10/10 23:59	更新 11日前	実行者数 13	...
unit 6-B p.55-A レポート 利用可能期間 2022/10/24 17:00 - 2022/10/31 23:59	更新 16日前	実行者数 10	...

教材を作成する

教材並び替えレベル設定

立地

Top

# 5. 大学での実践について⑥

多読・音読・フィードバックに関する回答(一部) 自由回答は任意  
履修者数:63人, 回答者数:56人, 回答率:90%

## 〔多読〕

読む課題や多読本のプレゼンなどで, 表現力がついたと思うから。(4)

多読を英語だけでどれだけ説明できるか, 自分がどれだけ単語を知っているかを確認できたから。

多読をさせてもらって, 英語の理解力が上がったと思います。(2)

## 〔音読〕

音読練習が大変だったけど, 前より英語の読み方が確実に変わった。

音読でネイティブのスピードで英語を話すこと。

音読のコツを教えてもらい, 実際に音読することで力が伸びた手応えがあった。

授業外で, 自分で英語に触れることができるようになったから。

英語の発音に触れたことで楽しさがわかって, ラジオで英語を聞いたり, 英語の単語を電車でみたりするようになった。

発音の大切さが分かって練習できたのが良かった。

英語を単語同士繋げて読む読み方をしていたら音読練習のときに回数を重ねるほどスラスラ読めるようになった。

## 〔フィードバック, その他〕

自分から学ぼうとすれば学びが増えるから。

先生からのフィードバックが丁寧で, やる気が出た。

PCを使って自分の状況が把握出来るので焦ることが出来た。

英語が伸びる方法を先生がたくさん教えてくれた点。

良くなったら, 褒めてくれたりしたのがよかった。

英語をスラスラ読めるように教えてくれた。

## 5. 大学での実践について ⑦

本実践では、読解力向上のための一方略として、多読演習との併用で多読の効果を高めるとの報告(Liu and Zhang, 2018)があることから、**内容理解問題及び本の口頭レポート**を導入している。

内容理解問題は多読本の中に含まれており、学生は、読書後すぐに取り組む。レポートは4名1グループで実施し、1台のiPadで録画する。発表後は各グループ内で自己評価と相互評価を行い、評価用紙を教員に提出する。

今後は英語3活動のスパイラル学習と学生の提出物や授業アンケートに加えて、プレゼンテーションに対する自己効力感の変化や教員のフィードバックに至る、一連の学習ループの検証が課題

## 6. 高校での授業と高大連携に向けて ①

### 高大連携による英語授業改善および公開研究授業の実施経緯

- ✓ 大阪府の南西部に位置する, 府立A高校の「英語コミュニケーション」の授業は\*ラウンド制指導法を採用しており, 77期生(22年度入学生)では, ラウンド制を採用しやすい構成であるという点から, 文部科学省検定済教科書『BLUE MARBLE』(数研出版)が採択された。
- ✓ 本実践の第一発表者が上記教科書の著者の一人であり, その研究内容がA高校の**指導方法と合致しているため**, 高大連携を兼ねて, 英語授業改善に向けた指導助言を行うことになった。

\* 多様な方法を用いて、一つの教材を学習させる指導法。

一例として, リスニング, リーディング, そして音読による英語の内在化, その後, ライティングやスピーキングでのアウトプット等が行われることがある。



# 6. 高校での授業と高大連携に向けて ②

普通科単位制(77期生280名, 45分×7コマ授業)A高校のカリキュラム

学年	科目名	コマ数	備考
1年	英語コミュニケーションⅠ	3	2クラス3展開の少人数授業
	論理・表現Ⅰ	2	
2年	英語コミュニケーションⅡ	4	2クラス3展開の少人数授業
	論理・表現Ⅱ	2	
	(学)長文読解	2	選択科目(読解力をより強化したい者)
3年	英語コミュニケーションⅢ	3	
	論理・表現Ⅲ	3	選択科目(国公立大学想定のOutput)
	(学)英語読解特講	2	選択科目(国公立大学想定の読解問題)
	(学)総合英語	2	選択科目(私立大学想定の総合問題)
	(学)実用英語	前期2	選択科目(英検などの資格英語)
	(学)時事英語	後期2	選択科目

## 6. 高校での授業と高大連携に向けて ③

英語授業改善の流れと改善の方向性

第1回 22年11月22日 第一著者による授業見学および指導助言

第2回 23年 2月14日 改善した授業の公開および研究協議・指導助言

指導助言を受けて生徒が感じている課題を改善

以下が授業改善の方向性であり,これを図示したものが学習指導案(次々ページ左)



学習指導案2: 11月の授業後に実施されたアンケート結果に基づく生徒観

学習指導案3: 指導方法・評価方法により解決

学習指導案4: 理想の生徒(=指導目標)に近づける

# 6. 高校での授業と高大連携に向けて ④

## 高大連携による英語授業改善 第2回 学習指導案

	日時	学年	科目(人数)	指導者
大阪府立 A高等学校	2023年2月14日(火) 第7校時14:50~15:35	1年3組	英語コミュニケーションⅠ (20名)※1クラス2展開	/

### 1 本課の教材と単元計画

教科書:『BLUE MARBLE English Communication I』(数研出版)

単元:Lesson 9 Surviving in the Information Age

第1時 ラウンド制ワークシートによるPart 1の本文理解

第2時 定着活動によるPart 1の復習、文法の解説、リスニング小テスト。

※ 第8時Part 4まで上記の繰り返し

**第7時 ラウンド制ワークシートによるPart 4の本文理解(次ページ右)**

第8時 定着活動によるPart 4の復習、文法の解説、リスニング小テスト。

第9時 単元内容についての英検2次面接方式Interview Test

## 2、現状の生徒 (=生徒観)

### 【内容面】

- ①単元の題材について知らない。[知識・技能]
- ②上記①ゆえに、単元の題材について、自分の意見を英語で表現できない。  
[思考・判断・表現]  
[主体的に学習に取り組む態度]

### 【言語面】[知識・技能]

#### ※ 現行授業に対する生徒アンケートより

- ①音声情報だけでタイトルを選ぶことができない。
- ②新出語彙の定義が書けない。
- ③英語の学習法がわからない。
- ④定着のための本文穴埋め小テスト10問ができない。

## 3 - (1)、 指導方法 (=指導観)

### ①ラウンド制ワークシートによる単元内容の理解のための諸活動

- ・絵の並べ替えによる視覚情報と音声情報の一致
- ・Skimmingによる概要理解
- ・文脈による新出語彙の意味の推測
- ・Scanningによる要点理解
- ・理解の定着のためのOverlappingやReproducing

### ②単元内容についての英検2次面接方式 Interview Test

- ※ 他、TOEFLやIELTSなど民間試験を出題形式により意識させる。

## 3 - (2)、 評価方法

- ①観察、ワークシートの回収、小テスト、考査など。[知]
- ②Interview Testによるパフォーマンス評価  
[思] [主]

## 4、理想の生徒 (=指導目標)

### 【内容面】

- ①単元の題材について、概要や要点を把握することで、内容を英語で理解している。[知]
- ②上記①により、単元の題材について、自分の意見を英語で表現している。  
[思] [主]

### 【言語面】[知]

- ①絵などの視覚情報により題材の背景知識 (content schema) を活用しながら、英文を読んでいる。
- ②新出語彙の意味をより簡単に言い換えられた語彙から推測している。
- ③SkimmingやScanningなど読解方略を活用しながら、効率的に英文を読んでいる。また、Overlappingなど定着のための音読活動が下記④のDictation能力の向上にもつながることを理解し、実践している。
- ④音声情報を手がかりに英語を書き取る小テストに取り組んでいる。

分	学習活動	指導上の留意点	評価の観点と方法	技能
	Lesson 9 Part 4 ワークシート TASK 1 ・本文を聞いて絵を並び替える。	・その絵を表す Topic sentence を事前に聞かせ、並べ替えやすくする。	・解答の回収 [知]	L
	TASK 2 ・その絵を表す各段落の Topic sentence を抜き出す (Skimming)。	・TASK 4 の Logic Flow の段落番号右を参照させる。 ・TASK 3 に向け、Topic sentence に含まれる新出語彙のキーワードに下線を引かせておく。	・考査 [知]	RW
	TASK 3 ・新出語彙のキーワードの意味を推測し、表に記入する。 ・その Topic sentence を用いて、本文の概要を理解する。 ・新出語彙の発音を練習する。	・事前の語彙指導計画により、どの新出語彙を産出語彙あるいは受容語彙として指導するかを決めておく。	・考査 [知]	R R
	TASK 4 ・キーワードからタイトルを完成させる。 ・Eye-shadowing による Scanning	・Eye-shadowing の前に読み取るべき情報を事前提示する。 ・Logic Flow の完成は IELTS、指示内容の明示は TOEFL など、出題形式により民間試験を意識させる。	・解答の回収 [知] ・考査 [知]	R R
30	TASK 5 ・スラッシュ訳で本文の意味を確認する。 ・発話準備と定着のための Overlapping	・以降の活動で発話しやすくなるよう、速度を変えて何度も Overlapping させる。	・観察 [知]	R
	TASK 6 ・本文の概要を再確認するためにペアで Reproducing	・スラッシュ訳で切れ目を確認させ、事前音読させる。 ・絵を見て復唱させる。	・観察 [知]	Si
	Listening Quiz ・ Dictation ・ True or False	・論理・表現 I の Dictation テストとの接続を意識させる。	・解答の回収 [知]	LW

# 授業形態と活動の比較

	A高校		大学	
形態	ラウンド制		英語3活動スパイラル型	
活動	Task1 (L)		授業内多読 (30分)	
		絵の並び替え		内容理解 (テキスト付属の問題)
	Task2 (RW)		授業内速読 (PPT)	
		スキミング		内容理解 (スキミング、スキヤニング)
	Task3 (R)		音読 (録音提出)	
		スキヤニング		オーバーラップ音読
	Task4 (R)			
		アイシャドウィングによるスキヤニング		
	Task5 (R)			
		オーバーラップ音読		
	Task6 (R)			
		オーバーラップ音読 Reproducing		
	Listening Quiz			
		ディクテーション		
	リスニング (L)、リーディング (R)、ライティング (W)			

# 7. 今後の課題

- ✓ 大学非常勤講師担当講座での展開
  - 1) 共通教育シラバス
  - 2) より多くのデータ収集
  - 3) 教材及び授業スタイルの改善
- ✓ A高校との高大連携に向けた提案
  - 1) 本実践のラウンド制授業への導入方法やタイミング
  - 2) Reproducingを受けたRetellingの指導法や評価法  
(RetellingのAccuracyに関する評価)
  - 3) 授業を測る定期テストのあり方  
(「思考」問題ではどのような力を測るかetc.)
- ✓ 他の高校や中学校, 校種間連携に向けた本実践の普及

謝辞:

本研究は、科学研究費 基盤研究(C) 課題番号20K00884「英語プレゼンテーションとパターンプラクティスの有機的な連携による音声活動の充実化」の助成を受けた研究の一部です。



# 参考文献

- [1]千葉克裕, “多読学習が英文読解速度に与える効果”文教大学国際学部紀要, 28(1), pp.57-65, 2017.
- [2]Day, R., Bamford, J. Top ten principles for teaching extensive reading. 2002.
- [3]Ellis, R. Principles of instructed language learning. System, 33(2), pp.209-224, 2005.
- [4]Hsueh-Chao, M. H., & Nation, P., Unknown vocabulary density and reading comprehension, 2000.
- [5]門田修平, シャドーイング・音読と英語習得の科学, コスモピア, 東京, 2012.
- [6]加島巧, 木原直美, “教室内多読指導の実践について”長崎外大論叢, (11), pp.41-68, 2007.
- [7]宮迫靖静, “高校生の音読と英語力は関係があるか?”STEP BULLETIN vol.14, pp.14-25, 財団法人 日本英語検定協会, 東京, 2002.
- [8]新里眞男, “音読の意義と指導法”英語授業学の視点, 三省堂, 東京, 1991.
- [9]西田晴美, “音読と黙読学習の実践において学習者の内容理解に見られる変化に生じる相違, ” 跡見学園女子大学人文学フォーラム, (16), pp.196-175, 2018.

[10]西田晴美,“チャンク・リーディングを実践した初級学習者のチャンキング処理力の変容 質的アプローチによる分析,”英語教育研究, 43, pp.19-36, 2020

[11]西垣知佳子, 奥田健太郎,“大学の英語多読授業における指導効果,”千葉大学教育学部研究紀要, 67, pp.343-351, 2019.

[12]Nishizawa, H., Yoshioka, T., Ichikawa, Y., Effect of a six-year long extensive reading program for reluctant learners of English., Modern Journal of Language Teaching Methods, 7(8), pp.116-123, 2017.

[13]Nuttall, C., Teaching reading skills in a foreign language., 2005.

[14]Sugimoto Y, The Effect of Rapid Reading Multimedia Materials and Extensive Reading Materials on Senior High School Students' English Reading Comprehension. 言語と言語教育をめぐって 第10巻, pp.33-61, 2016.

[15]杉本喜孝, 坪田康 他, “話すためのシャドーイングの試み—高校生を対象にして—”, 次世代大学教育研究会, 京都工芸繊維大学, 京都, 2018.

[16]Tsubota Y, Sugimoto Y, Healy S 他, Practical Shadowing Activities in class with the reflection of CMC with Filipino teachers. EUROCALL 2019, Louvain-la-Neuve, Belgium, Aug. 2019.

[17]坪田 康, 杉本 喜孝, “オンラインフォームによるリフレクションを活用した英語スパイラル型学習の一検討－教員による音声指導の適応・学習者同士の経験の共有・システムティックなリフレクションの導入－” 信学技報, vol. 122, no. 304, TL2022-33, pp.37-42, 2022

[18]山口高領, 神田明延, 湯舟英一, 田淵龍二, 池山和子, 鈴木政浩, “チャンク単位の一斉音読訓練が黙読速度と読解スコアに与える影響” Language Education & Technology, 51, pp.243-266, 2014.

[19]山科美和子, 釣井千恵, “第 2 言語の語彙処理能力とリーディング力: 単語認知と読書量・読解速度との関連を調べて,” 岡田章子教授退任記念号, 英米評論, (24), pp.237-260, 2010.